

貸借対照表

平成31年2月28日現在

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流動資産	19,010,776	流動負債	13,679,010
現金・預金	854,678	支払手形	6,735,883
受取手形	3,623,265	買掛金	5,459,463
売掛金	11,080,085	短期借入金	611,250
商品	2,945,000	1年以内返済長期借入金	125,000
前払費用	35,340	リース債務	12,151
繰延税金資産	183,079	未払金	187,309
短期貸付金	1,740	未払費用	71,291
未収入金	181,531	未払法人税等	104,370
その他の	86,039	前受金	23,861
為替予約等	21,755	預り金	62,857
貸倒引当金	1,740	賞与引当金	284,000
固定資産	10,049,955	設備等支払手形	1,287
有形固定資産	4,804,493	その他	284
建物	2,233,296	固定負債	2,074,439
機械装置	12,304	長期借入金	1,450,000
車輜運搬具	637	リース債務	26,327
器具備品	140,471	繰延税金負債	22,936
土地	2,382,155	役員退職慰労引当金	133,175
リース資産	35,628	その他	442,000
無形固定資産	55,618	負債合計	15,753,449
借地権	9,290	純資産の部	
商標権	12,441	株主資本	13,249,127
ソフトウェア	25,720	資本金	450,687
ソフトウェア仮勘定	6,480	資本剰余金	84,615
その他	1,686	資本準備金	84,615
投資その他の資産	5,189,843	利益剰余金	12,713,825
投資有価証券	381,963	利益準備金	59,196
関係会社株式	3,153,541	その他利益剰余金	12,654,628
長期貸付金	215,090	固定資産圧縮積立金	64,565
更生債権等	106	別途積立金	10,500,000
前払年金費用	774,627	繰越利益剰余金	2,090,063
保証金	79,581	(うち当期純利益)	(1,971,186)
保険積立金	399,723	評価・換算差額等	58,154
会員権	65,948	その他有価証券評価差額金	58,154
その他	137,629	純資産合計	13,307,282
貸倒引当金	18,369	負債および純資産合計	29,060,732
資産合計	29,060,732		

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

個別注記表

重要な会計方針に係る事項

1. 資産の評価基準および評価方法

(1) 有価証券の評価基準および評価方法

関係会社株式...移動平均法に基づく原価法

その他有価証券

時価のあるもの...期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの...移動平均法に基づく原価法

(2) デリバティブの評価基準および評価方法

デリバティブ...時価法

(3) 棚卸資産の評価基準および評価方法

商品...移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低価に基づく簿価切下げの方法により算定）

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産...定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）ならびに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については定額法

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）...定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては利用可能期間（5年）に基づく定額法

(3) 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産...リース期間を耐用

年数とし、残存価額を零とする定額法

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権等の債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込み額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込み額のうち当期の負担額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末日において発生していると認められる確定給付企業年金制度に係る退職給付債務および年金資産の見込み額に基づき計上しております。

なお、当事業年度末日においては、年金資産見込み額が退職給付債務見込み額を超過しておりますので、超過額を前払年金費用として計上しております。

数理計算上の差異は、各期の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数（5年）により翌期から均等償却しております。

(追加情報)

上記とは別に、確定拠出年金制度に加入しており、この年金拠出額は支払時の費用として処理しております。

退職給付制度における確定給付企業年金制度および確定拠出年金制度の適用割合はおおむね70：30であります。

当社の退職給付制度については、上記のほか総合型確定給付企業年金基金に加入し、この拠出額は退職給付費用として処理しておりますが、当基金の積立状況等は下記のとおりであります。

記

(イ) 当基金の積立状況（平成30年3月31日現在）

年金資産の額	130,908,919千円
年金財政計算上の数理債務の額	146,380,421千円
差引額	15,471,501千円

(ロ) 制度全体に占める当社の掛金拠出割合 （平成30年3月末時点）

1.326%

(ハ) 補足説明に関する事項

・(イ)の差引額(a+b-c)	15,471,501千円
a. 剰余金	4,850,235千円
b. 繰越不足金	1,486,940千円
c. 未償却過去勤務債務残高	18,834,797千円
・過去勤務債務の償却方法	元利均等償却
・過去勤務債務の残存償却年数	第1加算 11年6ヵ月 第2加算 2年10ヵ月

(4) 役員退職慰労引当金

役員退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金の内規に基づく期末要支給額を計上しております。

4. 消費税等の会計処理

消費税および地方消費税の処理は、税抜方式によっております。

以 上